

株式の状況

株式数及び株主数 (平成25年3月31日現在)	
発行可能株式総数	78,000株
発行済株式総数	19,500株
株主数	606名

大株主 (平成25年3月31日現在)		
	持株数	持株比率
株式会社アルゴグラフィックス	9,900株	50.8%
セイコーインスツル株式会社	4,080株	20.9%
ジーダット従業員持株会	760株	3.9%
中 修一	239株	1.2%
石橋 眞一	150株	0.8%
株式会社エスケーエレクトロニクス	90株	0.5%
株式会社図研	90株	0.5%
大日本印刷株式会社	90株	0.5%
田口 康弘	88株	0.5%
岩崎 泰次	88株	0.5%

所有者別状況 (平成25年3月31日現在)		
所有者区分	持株数	持株比率
金融機関	79株	0.4%
証券会社	23株	0.1%
その他国内法人	14,280株	73.2%
外国法人等	70株	0.4%
個人・その他	4,748株	24.3%
自己名義株式	300株	1.5%
計	19,500株	100.0%



本社 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル
Tel : 03-5847-0312 (代)

当冊子に関するお問合せ先
株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp

※表紙の絵は、江戸時代に歌川広重が描いた、活気にあふれる日本橋です。
日本各地へ広がる五街道の起点、日本橋から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界に発信いたします。

株主メモ

上場市場	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日

株式の売買単位
100株
※平成25年3月27日(水曜日)をもって、大阪証券取引所JASDAQ市場における当社株式の売買単位を1株から100株に変更いたしました。詳細につきましては、P10の「トピックス」を御参照ください。

株主名簿管理人
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社になります。	みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いたします。 ※カスタマープラザではお取扱できませんのでご了承ください。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。
(<http://www.jedat.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



株式会社ジーダット

証券コード: 3841

第11期 株主通信

自平成24年4月1日 至平成25年3月31日





JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、電子産業の発展に貢献したいと考えています。

EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

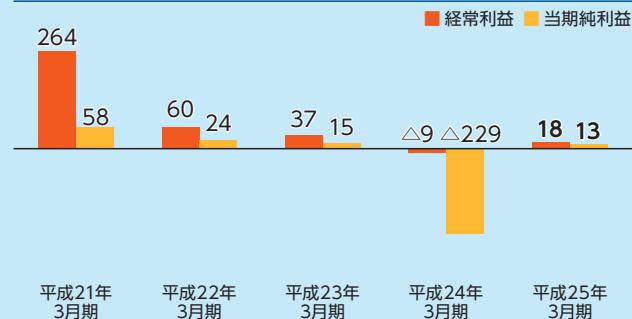
財務ハイライト

(単位：百万円)

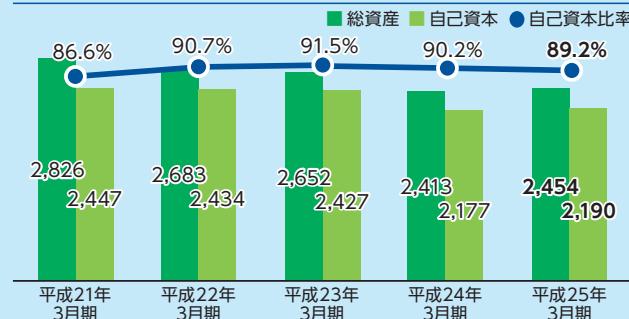
売上高・研究開発費



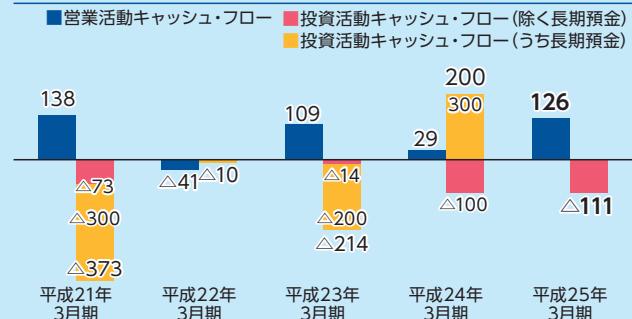
経常利益・当期純利益



総資産・自己資本



キャッシュ・フロー



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社企業グループに格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第11期は、厳しい見通しの中でも売上の回復を目指してスタートいたしました。連結売上高は前期比9.9%減の1,200百万円となり、前期を下回る結果となりました。営業損失は96百万円（前期は営業損失92百万円）と、赤字が続く結果となりましたが、助成金収入により、経常利益18百万円（前期は経常損失9百万円）を確保することができました。

当社の主要顧客である、日本国内の半導体ならびにFPD (Flat Panel Display) 等の電子部品業界は、昨年末の政権交代による追い風を受けて、回復の兆しが見えつつある分野も現れておりますが、業界全体としての縮小傾向は依然として強く、当社のEDAツールの使い手である電子部品設計者の減少が続いております。

こういった状況の中、第12期において当社は売上を拡大し、助成金に頼らずに何としてでも営業利益を黒字にすべく、3つの施策を実施してまいります。

まず1つ目は、国内向けの売上高を維持していくことであります。主力製品であるα-SXシリーズの中でも最も重要な分野に開発力を集中投入していくことで、製品力向上を加速し、比較的好調な自動車関連や携帯端末関連業界向けに解析系、検証系ツール群を拡販してまいります。

2つ目は、海外半導体市場向けの拡販です。既に当社のFPD市場向け設計ツールは海外においても実績がありますが、売上を伸ばしていくためには半導体市場向け設計ツールの本格的な海外売上展開が不可欠であります。当社では平成25年6月1日、営業

活動を行う連結子会社を中国上海に設立いたしました。今後半導体市場が大きく伸びる見通しにある中国において、その主戦場である上海に販売拠点を構えることによって、中国における売上を伸ばしてまいります。また、今年で50周年を迎えるEDA業界最大の展示会Design Automation Conference (米国：オースチン) へも出展し、最先端のアナログプロセスに向けて新たに開発したツールを世界へ向けてアピールしております。

3つ目は、ソリューション・ビジネスの立ち上げによる売上の拡大であります。当社では従来、カスタムソフトの受託開発を行ってまいりましたが、この度その範囲を拡大させてお客様のトータルな設計環境をカスタマイズする、ソリューションのご提供を行ってまいります。まずは業績好調な自動車関連業界に向けた活動をすでに開始しております。

厳しい状況が続きますが、株主の皆様におかれましてはより一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長
河内 一往

特集 EDA開発部次長に聞く

新製品Cforceの可能性

2013年1月、ジーダットはアナログ等のカスタムLSI設計向けの高速・高精度回路シミュレータCforce（シーフォース）の販売を開始いたしました。

回路シミュレータは、回路を設計する段階でその回路が目的通りに動くかどうかの確認をするためのツールで、約40年前に生まれた『最初のEDA（Electronic Design Automation）』と言われる技術です。その歴史が表す通り、現在の多種多様なEDAツールのベースエンジンとなるツールであり、満を持して販売を開始した当社の回路シミュレータの特長とその可能性について、当社EDA開発部次長 三浦一広に聞きました。

Q.なぜ、今、回路シミュレータなのか？

ジーダットが唯一、自社開発製品として持っていなかったのが回路シミュレータでした。回路シミュレータは基本的かつ必要不可欠な製品であるため、既に大手を含めた多くのEDAベンダーが開発販売しており、後発のジーダットが製品化しても、差別化を図ることが中々難しかったためです。しかし、回路がどう動くかをシミュレートする、というのは、あらゆる回路設計分野で必ず発生する作業であり、ジーダットが回路シミュレータを自社開発しない限り、お客様には常に他社シミュレータを提案せざるを得ませんでした。EDAベンダーとして、お客様に全ての設計作業を自社ツールで行える環境をご提供すること、自社で回路シミュレータを持つことは非常に大きな意義があり、この度のCforce開発に至りました。

Q.Cforceの特長は「スピード」

回路シミュレータ自体は古くからある技術ですが、そこで重要になってくるのがその「速さ」です。

ジーダットの回路シミュレータ「Cforce」は、シミュレーション結果の正確さは当然のこと、そのスピードにとことんこだわっています。設計する回路のサイズや種類にもよりますが、高品質、高信頼性を追求する回路を設計するときに行うシミュレーションの回数は、数万回に及びます。限られた時間の中で回路設計を行う設計者にとって、1度のシミュレーション時間が1秒短くなれば、全体で数万秒の時間短縮を図ることができ、それが納期の短縮や品質の向上に直結するわけですから、スピードには思い入れを持ってこだわり続けたいです。

また、お客様にとってのもう1つの利点は、ご希望にタイムリーにお応えできるという点です。現在、回路設計ツールを提供しているEDAベンダーの多くは海外の企業ですので、特に日本のお客様にとっては、ツールに対する要望が中々通らないケースが多々あります。ジーダットはワールドワイドを目指しながらも、日本のお客様の設計作業をスムーズに進める、良きパートナーでありたいと思っております。



Q.Cforceの売上効果は？

Cforceは、1月の販売開始から既に多くのライセンスを発行しており、今後もツール単体としての売上を大きく見込んでおります。が、ジーダットにとって、Cforceが完成したことで、自社開発製品だけで設計ツール群が完結したことの意味も非常に大きいものがあります。α-SXという自社製品群を、本当の意味でのトータルソリューションとしてお客様にご紹介できるということは、単に1製品が加わっただけではない相乗効果を生んでいます。

さらに、自社で回路シミュレータを開発した大きな理由は、様々な自社解析ツールへの応用です。例えば、当社のPowerVolt（パワーデバイス・アナログLSI用 高速度・高精度電源解析ツール）の中でシミュレーションエンジンを動かすことによって、電源、電圧効果の解析へ応用できますし、C³（新世代・統合回路設計システム）やIsmo（LSIレイアウト設計システム）といった対話型の設計

システムにおいても、Cforceと同時に用いることで、解析結果をリアルタイムで表示させることが可能になります。自社製品ですので、同時に数百本の回路シミュレータを動作させることも可能になります。このように、回路シミュレーション技術を保有したことで、その応用手法の可能性は無限大に広がります。

Q.Cforceの今後の展開は？

まず、DAC*2013で発表した戦略的新製品にCforceを組み込んだ展開を行います。それと同時に、回路シミュレーション技術を保有していないEDAベンダーに対して、シミュレータをOEM供給することを考えています。特にシミュレータを多用する回路最適化ツールを手がけるEDAベンダーは、米国を初めとして全世界中に多数存在していますので、海外展開への大きな足がかりにもなってきます。

加えて、テスト分野への展開も検討しております。これは、設計したICのチェックのために、製品全体のテスト回路を擬似的に作ってチェックするという手法です。実機上でのテストを行う前にテストができる、というのは非常に重要であり、特にニーズが高まっています。

*EDA業界最大の展示会「Design Automation Conference」

このように、回路シミュレーション技術はコア技術ですので、既存の自社ツールとの組み合わせにおいても、半導体、液晶以外の他分野の設計においても、これをいかようにでも展開することが可能です。ジーダットの新製品Cforceがもたらす相乗効果と無限の可能性に、どうぞ御期待ください。

業績の概要

■ 国内市場の縮小により売上高減少も、経常利益は黒字に

当連結会計年度における当社企業グループの主要顧客である、国内半導体ならびにFPD (Flat Panel Display) 等の電子部品業界は、世界的な景気減速による需要の低迷、激しい国際競争による価格の下落、パソコン需要の減少等の影響により、採算面で極めて厳しい状況にあり、V字回復に向けて業容縮小、業界再編等の施策を断行中であります。一方、一部の携帯端末や自動車関連の分野で好調を維持しており、また年度末にかけての円安・株高基調により、回復に向かう分野も現れました。しかしながら業界全体では依然として縮小傾向が続いており、設計設備に対する投資抑制ならびに設計者の減少に歯止めがかかっておりません。

このような状況において当社企業グループは、国

内市場に向けて設計信頼性向上のための新製品に加え、回路解析用の新製品を投入することにより、新たな需要の掘り起こしを行い、比較的好調な自動車業界、パワー半導体、イメージセンサー、タッチパネル関連の分野に集中した営業活動を展開してまいりました。海外市場向けには、国際的展示会への出展、競争力のある製品の集中投入、代理店の活性化による営業力強化等の施策を実施してまいりました。

また当社企業グループ内においては、製品の優先順位付けによる開発投資の集約化、研究開発子会社の吸収合併に向けた取組み等、事業構造の改編にまで踏み込んだ改革を実施しており、その結果として固定費の圧縮を実現しました。しかしながら短期的な成果は限定的なものに留まり、国内市場の縮小に

(単位：百万円)

	平成22年3月期業績		平成23年3月期業績		平成24年3月期業績		平成25年3月期業績		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前年同期比
売上高	1,512	100.0%	1,434	100.0%	1,331	100.0%	1,200	100.0%	△9.9%
売上総利益	1,025	67.8%	1,006	70.1%	993	74.6%	976	81.4%	△1.7%
販売費及び一般管理費	1,089	72.1%	1,021	71.2%	1,085	81.5%	1,073	89.4%	△1.1%
営業損失 (△)	△64	△4.3%	△14	△1.0%	△92	△6.9%	△96	△8.1%	—
経常利益又は経常損失 (△)	60	4.0%	37	2.6%	△9	△0.7%	18	1.5%	—
当期純利益又は当期純損失 (△)	24	1.6%	15	1.1%	△229	△17.2%	13	1.2%	—

による影響をカバーするまでには至りませんでした。

当連結会計年度における連結売上高は12億円（前期比9.9%減）、連結営業損失は96百万円（前期は営業損失92百万円）となりました。営業外収益として

助成金収入他を計上した結果、連結経常利益は18百万円（前期は経常損失9百万円）、連結当期純利益は13百万円（前期は当期純損失2億29百万円）となりました。

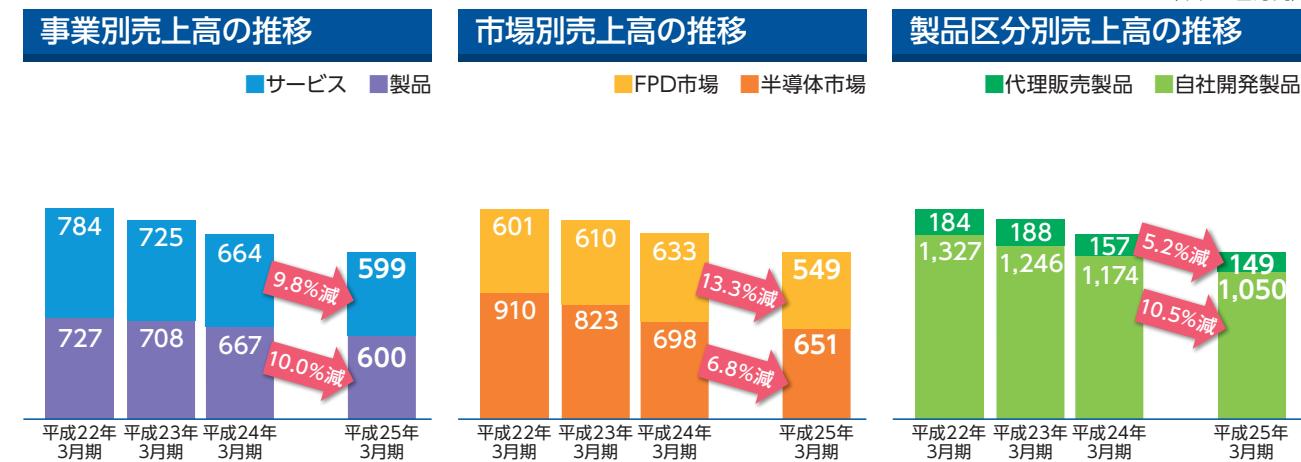
■ 製品売上高10.0%減、サービス売上高9.8%減と共に減少

当連結会計年度における当社企業グループの売上高は、製品及び商品売上高は6億円（前期比10.0%減）、サービス売上高は5億99百万円（同9.8%減）となりました。これら売上高減少の主な理由は、国内既存顧客の設計設備投資抑制の継続による売上高の減少に対して、新製品による新規需要の掘り起こしや海外拡販の増加が追いついていないこと、また顧客企業の事業再編やリストラにより、設計技術者の減員および設計外注費の削減が進み、既存設計設備の稼働率が減少したことによります。

市場別では、半導体市場においては、顧客企業の事業再編やリストラによる影響を受けて6億51百万円（同6.8%減）となりました。液晶パネル等のFPD市場につきましては、中国景気の減速等による海外受注のシフトの影響が大きく、5億49百万円（同13.3%減）となりました。

自社開発製品、代理販売製品の区分では、自社開発製品は国内市場縮小の影響により「α-SX」の売上が低迷したことにより10億50百万円（同10.5%減）となり、代理販売製品は1億49百万円（同5.2%減）となりました。

(単位：百万円)



連結財務諸表

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (平成25年3月31日)	前連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産	2,197,946	2,340,302
4 現金及び預金	1,984,213	1,969,746
受取手形及び売掛金	171,197	172,782
電子記録債権	—	57,110
1 有価証券	—	99,847
たな卸資産	3,644	4,934
その他	38,891	37,381
貸倒引当金	—	△1,500
固定資産	256,998	73,260
有形固定資産	21,831	29,492
無形固定資産	9,237	19,301
ソフトウェア	9,237	19,301
2 投資その他の資産	225,928	24,466
投資有価証券	200,000	—
その他	25,928	24,466
資産合計	2,454,944	2,413,563

1 有価証券

全額満期償還となり、99百万円減少いたしました。

2 投資その他の資産

増加の主な原因は、投資有価証券2億円の取得によるものであります。

科目	当連結会計年度 (平成25年3月31日)	前連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債	264,018	235,649
買掛金	19,971	23,848
未払法人税等	6,490	5,601
賞与引当金	56,544	37,187
前受金	108,895	108,125
その他	72,116	60,885
負債合計	264,018	235,649
純資産の部		
株主資本	2,183,253	2,178,904
資本金	760,007	760,007
資本剰余金	890,558	890,558
利益剰余金	565,364	561,015
自己株式	△32,676	△32,676
その他の包括利益累計額	7,672	△989
為替換算調整勘定	7,672	△989
純資産合計	2,190,925	2,177,914
負債純資産合計	2,454,944	2,413,563

3 営業外収益

助成金収入110百万円を計上いたしました。

4 現金及び現金同等物の期末残高

「現金及び現金同等物の期末残高」と連結貸借対照表「現金及び預金」との差額は、預入期間3ヶ月を超える定期預金9億円によるものであります。

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	1,200,154	1,331,717
売上原価	223,815	338,648
売上総利益	976,339	993,069
販売費及び一般管理費	1,073,174	1,085,621
営業損失(△)	△96,835	△92,552
3 営業外収益	116,740	85,760
営業外費用	1,736	3,037
経常利益又は経常損失(△)	18,169	△9,828
特別損失	—	776
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	18,169	△10,604
法人税、住民税及び事業税	4,220	4,675
法人税等調整額	—	214,440
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	13,949	△229,721
当期純利益又は当期純損失(△)	13,949	△229,721

連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
平成24年4月1日残高	760,007	890,558	561,015	△32,676	2,178,904	△989	△989	2,177,914
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△9,600		△9,600			△9,600
当期純利益			13,949		13,949			13,949
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						8,662	8,662	8,662
連結会計年度中の変動額合計	—	—	4,349	—	4,349	8,662	8,662	13,011
平成25年3月31日残高	760,007	890,558	565,364	△32,676	2,183,253	7,672	7,672	2,190,925

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	126,976	29,746
投資活動によるキャッシュ・フロー	△111,572	200,150
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,600	△19,200
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,662	2,118
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	14,466	212,815
現金及び現金同等物の期首残高	1,069,746	854,098
その他の現金及び現金同等物の増減額	—	2,833
4 現金及び現金同等物の期末残高	1,084,213	1,069,746

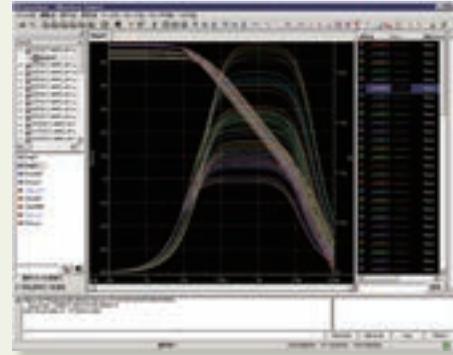
1株当たり情報

1株当たり純資産額	1,141円10銭
1株当たり当期純利益	7円26銭

トピックス

■アナログLSI設計向け高速・高精度・ベストコストパフォーマンス回路シミュレータ：Cforceの販売を開始

当社は、アナログ等カスタムLSI設計向けの高速・高精度・ベストコストパフォーマンス回路シミュレータ：Cforceの販売を開始いたしました。今回当社が独自の技術で開発しましたCforceは、高速・高精度を特長としたアナログ回路向けのシミュレータです。マルチスレッド、高収束技術、高精度ソルバなど最先端シミュレーション技術を駆使しており、大規模な回路を短時間でかつ高精度に解析することができます。



Cforceによるシミュレーション結果

■α-SXの最新バージョンV4.0.0をリリース

当社は、主力製品である半導体集積回路およびFPD (Flat Panel Display)向け統合設計環境：α-SXの最新バージョンであるV4.0.0をリリースいたしました。V4.0.0ではシステムの根幹であるデータベースを刷新することにより、業界の標準化への対応をはじめ、各種機能を拡張し、パフォーマンスを大幅にUPしております。

■50th Design Automation Conference (DAC2013) に出展



ジーダットブースの様子

当社は2012年に引き続き2013年も、今回は米国、オースチンで開催されたEDA業界最大の展示会“50th Design Automation Conference (DAC2013)”に出展いたしました。特に最先端アナログプロセス向けの新製品であるAnchor/TXAおよびAnchor/RVTのインパクトは大きく、各国の多くの技術者の方にデモンストレーションを行い、大きな反響がありました。

■中国(上海)に、営業活動を行う子会社を設立

当社は、今後の中国における半導体市場の拡大に先駆けて、中国上海市に営業活動を行う連結子会社を設立いたしました。上海における営業拠点を確立するとともに営業力を大幅に強化して、特に半導体市場向けEDAソフトウェアの売上を大幅に拡大させることにより、3年後には売上高5億円を目指します。

会社名：愛績旻(上海)信息科技有限公司

資本金：110万米ドル

■株式の分割及び単元株制度の採用について

当社は、平成19年11月27日に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合での株式分割を実施し、100株を1単元とする単元株制度を採用いたしました。

- ◆この株式の分割及び単元株制度の採用に伴う、投資単位の金額の実質的な変更はございません。
- ◆大阪証券取引所JASDAQ市場における当社株式の売買単位は、平成25年3月27日(水曜日)をもって1株から100株に変更されております。
- ◆平成25年3月期の配当金につきましては、効力発生日が平成25年4月1日のため、当該制度の適用はございません。

会社概要/役員 (平成25年6月19日現在)

会社概要		役員	
商号	株式会社ジーダット (Jedat Inc.)	代表取締役社長	河内 一往
所在地	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル	取締役	伊藤 俊彦 (経営企画部長)
代表者	代表取締役社長 河内 一往	取締役	田口 康弘 (営業技術本部長)
営業開始	平成16年2月2日	社外取締役	福永 正之 (株)アルゴグラフィックス (取締役常務執行役員)
資本金	760,007,110円	社外取締役	松井 義雄 (株)アルゴグラフィックス (経理部部长)
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング	社外取締役	下田 貞之 (セイコーインスツル(株) (執行役員半導体事業部事業部長)
関連会社	績達特軟件(北京)有限公司 (Jedat China Software Inc.) 北京市西城区新街口外大街28号B座 409-412室 URL http://www.jedat-soft.com.cn	常勤監査役	鈴木 想一
	愛績旻(上海)信息科技有限公司 (AJM Technology (Shanghai) Co., Ltd.) 上海市肇嘉浜路1065号飛雕国際大廈 2303室	監査役	中村 隆夫 (株)アルゴグラフィックス (常勤監査役)
		社外監査役	津留 真人
		社外監査役	山本 靖